

「知の巨人」と呼ばれたジャーナリストの立花隆さんが去年4月30日に亡くなった。

死の直前「遺体はごみとして捨ててほしい。自分が残した書籍や資料は古本屋でさばいてほしい」と言い残していた。――立花さんは、なぜ全てを「無」にすることを選んだのか。17年にわたり立花さんを取材してきたディレクターに、遺族から段ボール100個分の資料(田中角栄研究などの取材資料、様々な著作の生原稿、講演や講義の録音テープやビデオ等)が託された。それらを読み進めていくとあらゆる知の領域を渡り歩いた立花さんが、最後に「人間存在とは何か」という命題に達し、その先の「死とはいったい何なのか」を突き詰めようとする姿が見えてきた。番組では、立花さんの思索を辿り、関係者を国内外で徹底取材する。立花さんが最期の旅の末に到達した、「死生観の境地」を探し求めていく。

NHKスペシャル5min.







HUMANドキュメント&クローズアップ現代



(NHKサイト・どーがレー



NHK取材ノート



(NHKサイト

